

第5回北上市政策評価委員会会議録（要旨）

【出資法人等協働評価専門部会】

日 時	平成23年11月10日（木）午後1時～5時
場 所	北上市市民交流プラザ
出席者	(1)委員 5名 山田晴義部会長、青木一郎委員、小野寺純治委員、宗和暢之委員、谷藤邦基委員 (2)副市長及び事務局 (3)担当部課職員
傍聴者	1名

1 議題

- (1) 外部評価シートとりまとめ
- (2) 部会総括

	対象案件
1	黒沢尻西部土地区画整理事業について 黒沢尻西部土地区画整理組合
2	夏油高原スキー場の運営について 夏油高原開発（株）
3	市街地再開発事業 北上都心開発（株）
4	市街地再開発事業 北上開発ビル管理（株）
5	情報格差の解消・情報通信技術の活用 和賀有線テレビ（株）、北上ケーブルテレビ（株）

2 会議の概要及び主な意見等

委員会としてとりまとめた各案件の外部評価シートの最終確認を行い、最後に今年度の部会総括として意見交換を行った。

(1) 黒沢尻西部土地区画整理事業について：黒沢尻西部土地区画整理組合

【主な意見等】

- ・損失のことだけではなくて、販売についての努力も図っていくということを市民に説明します、ということが文章に入っていた方がいい。
- ・もし説明責任の項目を付け加えるのであれば、今回の事例を次に生かしていくということ、結果としてこうなりましたじゃなくて、今後どうしていくのかという部分も、説明する項目に加えていただきたいと思います。

(2) 夏油高原スキー場の運営について：夏油高原開発（株）

【主な意見等】

- ・タスクフォースではない、もう少し大きな枠組みのラウンドテーブル的な組織体を作って、実務者、責任者が集まって意見交換をする場も必要かと思う。冬季だけではなく通年も含めた観光産業、それをどうしていくかを、夏油高原があって、加森観光があって、ビジョンを共有するというような組織体が必要。
- ・スキー場としては利用者も減っていくだろうということで、スキー場よりももっと広い地域全体とか学校全体で考えないといけない。市側の観光戦略を作っていくましようというのは一方であると思う。その一方でやはり、潜在的には大きな経費負担が予想されるわけで、それについて何も対策をとらなくていいのかというと、そういうわけにはいかない。非常にまずい状態というのは突然閉鎖されて、突然お金が要求されるということ。そうならないように、極力損失が発生しても小さくするし、発生してもソフトランディングするし、みんなで痛みをわけあうような形にしていましようという、戦略といっても前向きではなく後ろ向き側の対応として必要だと思う。

(3) 市街地再開発事業：北上都心開発（株）

【主な意見等】

- ・市として戦略的に考えるときに、こちらと駅前ビルとどちらかがTMO的な動きをしながら賑わいを作っていくことが必要であろうと思う。ビル救済のために市の施設を分散してやるというのはあまり好ましくないだろうと思う。
- ・市役所の所管が違うということで、入口からもう別れてしまっている。駅前のビルとこちらの再開発ビルをトータルで考えていかないと、いずれどちらもだめになる危険性がある。どちらかを切り落としてという話になったりするかもしれない。そういうことを考えていく大前提として、ここ30年くらいの北上の商業の流れというか、いろんな人たちの活動のありようを整理する必要があると思う。
- ・この方針のもと経営の自主性を高めるために少しでも柔軟にやってもらいましようという論点と、商店街と一体となってイベントなりをやっていましようという論点と、北上市周辺の商圈全体も含めてどのような商業施設の在り方なり配置なりを考えていくかという論点と、区切ったほうがわかりやすいのではないか。単にこの施設をどうするのかということではなく、北上市の全体の商圈の中でどう考えるのか、ということを経括意見に書かれてあったほうが、市のほうも今後の対応策を作りやすいのではないか。

(4) 市街地再開発事業：北上開発ビル管理（株）

【主な意見等】

- ・委員会としては、あまり具体的に法人をどのようにしろと書かないほうがいいのではないか。問題を先送りするのではなくて、そういう協議の場を作ってください、ということだと思う。
- ・これは課題を解決するための、方策を検討するステークホルダー会議を開催するのが大事なことだと思う。
- ・駅前というものは、市としては核になる場所のひとつだと思う。本当にそれに見合うようなビルの活用、そういうものが本来はあるべきと思う。
- ・会社だけではなくて周辺みんな集まって、真剣に協議してみようよということで、そういう協議をする中で、今までの第三セクターであるということも全部取り払って議論をしたらいいというような、議論の幅を広げてあげるような提案の仕方が一番いいのではないか。
- ・駅前だから人が集まるという考えがたぶん間違っている。人は確かに通っていくかもしれないけど、通過しているだけ。駅自体に人を留める機能はまったくない。駅前だから人が集まるというのは、岩手県だと盛岡駅だけ。そこは発想を変えていかないと、なかなか打開策は出てこないと思う。

(5) 情報格差の解消・情報通信技術の活用：和賀有線テレビ（株）及び北上ケーブルテレビ（株）

【主な意見等】

- ・和賀有線テレビに関しては、合併だけではなく色々なことに対処するために常勤役員を置くべき、というような議論にしたほうがよい。
- ・事実認識として何を認識すべきかと言うと、ひとつはこの2つの会社の経営の健全性。それともうひとつは、本当に市として関与するべきものがあるのか。本当に難視聴地域がどれだけあるか、本当にケーブルを利用する人がどれだけ市内にいるか、本当に官としてそれが求められているのかということ。
- ・公共性がなければ税金の投入もだめですが、公共性があれば合併交渉を積極的に進めるなどの道筋が見えてくる。
- ・合併が最初から出てくるべきではなくて、公共性や必要性の話にケリがついたところで、その有力なひとつの選択肢として合併というものがある。
- ・合併問題を避けて通れないので、合併するかどうかも含めて市のリーダーシップを発揮して目途をつけるというのが大事なことではないかと思う。

(6) 部会総括（評価全般について）

【主な意見等】

- ・ここまできちっとした形で各項目についてコメントしていく必要があるのかどうか。もしこのような形で行くのであれば、内部評価もした上で、それと1対1

になる項目で外部評価がコメントするという形が望ましいのではないか。

・たとえば、内部評価として法人の自己評価があって、それを監督している所管課の評価があって、それを見ながら外部評価委員が質問をして、さらに検証をしながら評価をするというやり方だと、もう少し理解が深まったのかなという感じはする。

・評価項目について言えば、果たして全て埋める必要があるのかどうか。この項目は評価する、この項目は評価しなくていいよ、という切り分けをすること自体も評価であると思う。

・「市民意識、ニーズ」のところについては、市のフィルターを通ったところのみでの評価しかできないので、うまくコメントできなかった。もしこのような項目を起こすのであれば、委員が独自になり別な形で市民からのダイレクトな情報を聞かなければ、それは内部評価をそのまま受け入れるしかない。

・どの程度の資料をいただくのがいいのかもあるが、詳細な資料よりは、むしろこういう問題があるんですよと、最初に言ってもらった方がありがたい。ただ、それで論点が隠されてしまっても困るところではある。

・時間の問題があって難しいとは思いますが、現場感覚がなかったので、少し現場で話が聞けたらよかった。

・情報公開をすることによって議論の過程で明らかにしてくような戦略をとるか、それとも、第三セクターといえども民間会社であって、それなりの経営の事情があるから詳らかにすべきではないとするか、しっかりと議論してほしい。第三セクターは市民から見れば一番わかりづらいところで、そういうところを市民に喚起していくという方法も、委員会のひとつの活用方法としてあり得る。

・総括意見のところを書くことにして、必要に応じて各小項目の内容も盛り込んでいけるようにしてあれば書きやすくなる。このフォーマットで行くともう少し時間がないと難しい。

・三セクと市の関わり方という観点になった時、こちらの北上開発ビルと駅前ビルの関係性をわけて考えられないとずっと思っていた。今日はそのことが話題になったけれども、他に関連するものはまとめて考える。ケーブル2社はまとめてやったわけで、そういうこともあっていい。

・法人の機能に対する市の活用状況の評価は、たぶん我々に一番期待されるべきところだと思う。法人の財務状況というのは、どこまで言っているのかというあたりが非常に難しい。

・評価した後の経過の状況というのは、うかがう意義がある。この委員会の意見に対して実際にどういうことか、具体的なやり方はどうなのかなど、さらにやりとりする機会は必要と思う。